

学生、保護者、教職員の皆様

教学 IR 情報の分析結果と令和 6 年度の本学の取り組みについて

令和 7 年 6 月
IR センター

川村学園女子大学は、学生の皆さんの大学での学修や生活について、さまざまな調査を行い、設定された目標に向けて学修がどのように進められているか、また学生の皆さんの大学生活が有意義で満足できるものになっているかを検証しています。ここでは、IR (Institutional Research) センターがその検証結果の中から、令和 3 (2021) 年度から令和 6 (2024) 年度までに収集された学生生活アンケートと、令和 4 (2022) 年度から令和 6 (2024) 年度までのアセスメント・テストの追跡データの分析結果を報告いたします。さらに、このような教学 IR 情報の検証結果を活用して、大学の教育活動や学生さんの学修や生活が、より有意義で満足できるものなるように取り組んでいます。分析結果をもとに令和 6 (2024) 年度に本学が行なったいくつかの取り組みの事例も紹介いたします。

(1) 学生生活アンケートの分析結果

令和 6 (2024) 年度の学生生活アンケートは 61.5% の回答率でした。その中から「満足度」「意欲」「学修成果・成長実感」の 3 点について、分析結果を報告します。



1. 満足度

卒業生（令和 3 (2021) 年度入学）の 4 年間の追跡調査の結果では、大学生活への満足度は学年が進むにつれて上昇していました。また令和 6 (2024) 年度の各学年の満足度を比較してみても、学年が上がるほど満足度が概ね高くなっていました。（詳しくは、IR センターのホームページをご覧ください）

上級学年になるほど、ゼミなどの少人数授業が増え、また教員や他の学生と交流も増えるためではないかと考えられます。

2. 意欲

学年別にみると、いずれの学年でも資格や将来、卒業後の進路などキャリアに対するポイントが 3.00 を上回り、学生の意識・関心の高さがわかりました。一方、学内外の自主的な活動に関するポイントはあまり高くありませんでした。

3. 学修成果・成長実感

ほとんどの項目で年次が進むにつれてポイントが高くなっており、本学での 4 年間でさまざまな成長を実感して卒業した様子がうかがえます。特に本学の学生はパソコンの技能や専門の知識に成長実感が強く、かつ年が高いほど成長を感じている学生が多いことがわかりました。



(2) アセスメント・テスト (PROG) の分析結果

本学が現在採用しているアセスメント・テスト (PROG) は、学生の一般的な知的技能（ジェネリックスキル）を測定するテストで、問題解決力と言語・非言語処理能力を測る「リテラシー」と、社会的スキル（対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力）を測る「コンピテンシー」から構成されています。今回、令和 4 (2022) 年度入学者の 1 年次と 3 年次（令和 6 (2024) 年度）の分析結果から、2 年間の学修の成果が検証されました。

1. リテラシー（問題解決力、言語・非言語処理能力）

1, 3年次を比較した結果、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力は、**1年次より3年次**のほうが高い結果が示されたことから、これらのリテラシーは、ある程度習得されているものと考えられ、これらに該当するディプロマ・ポリシー1, 2の一部は、ある程度達成されているものといえます。

2. コンピテンシー（対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力）

コンピテンシーは、ディプロマ・ポリシー3「主体性 協働 社会規範」に対応するものであり、分析の結果、対課題基礎力は、1年次より3年次のほうが高い結果が示されたことから、これに該当するディプロマ・ポリシー3の一部は、ある程度習得がされているものと考えられます。一方、対人基礎力、対自己基礎力は、3年次より1年次のほうが高い結果が示されたことから、これらに該当するディプロマ・ポリシー3の一部は、今後さらなる学修達成が課題と考えられます。

（3）本学の取り組みの事例と教学 IR

本学は、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を掲げて教育活動を展開しています。ディプロマ・ポリシーは、学生が身につけるべき資質として3つを掲げています。ディプロマ・ポリシー1は「幅広い理解 言語的理解と表現」、ディプロマ・ポリシー2は「専門知識方法の理解分析と思考力」、ディプロマ・ポリシー3「主体性 協働 社会規範」を身につけることです。教学 IR の分析結果をもとに、教学マネジメント会議（令和6（2023）年9月）では、ディプロマ・ポリシーに基づいた取り組みが検証され、さらに今後の新たな取り組みが議論されました。

データサイエンス教育の展開

IRセンターによる IR データの分析結果から、本学の学生の学修成果として、学科の専門科目とコンピュータを用いた資料の作成などのスキルが身についたことが報告されました（2024年度卒業年次生アンケート結果）。本学では2024年度からデータサイエンス副専攻を設置するとともに、2025年度から情報処理の基礎科目をさらに充実させる取り組みを行なっています。これらの取り組みはディプロマ・ポリシー1と2に基づいています。



主体的な学修と対人スキルの習得の支援

アセスメントテストの分析からは、学生の対人・対自己のコンピテンシーに課題があることが明らかとなりました（PROGテストの分析結果）。本学は、学生の他者や自己の理解を支援する取り組みとして、学生生活支援室を中心に具体的な取り組みを行っています。2024年度はスキルアップ講座～伝わるプレゼン+タイムマネジメント編～>が実施され、今年度は<～チームワーク力を身につけよう～>が計画されています。これらはディプロマ・ポリシー3（主体性、協働）を踏まえた取り組みです。